

作成日：2016 年 10 月 06 日

改訂日：2025 年 09 月 26 日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称	ワイゲルト鉄ヘマトキシリン 2
品番	40351、40352
供給者の会社名／部署	武藤化学株式会社／學術部
住所	東京都文京区本郷 2-10-7
電話番号	03-3814-5511
ファックス番号	03-3815-4832
電子メールアドレス	mutopop@mutokagaku.com
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

区分に該当しない／分類できない

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性	: 区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分 2(全身毒性)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)	: 区分 3
----------------	--------

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	皮膚刺激 強い眼刺激 臓器の障害のおそれ(全身毒性) 水生生物に有害

注意書き

安全対策	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手など、ばく露箇所をよく洗うこと。
------	---

	この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
	環境への放出を避けること。
	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
応急処置	皮膚に付着した場合：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。多量の水/石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
	ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡する事。
保管	容器を密閉しておくこと。
	直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。
廃棄	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
他の危険有害性	データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ; 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	化審法	CAS 番号
塩化鉄(Ⅲ)6水和物	1-5%	FeCl ₃ ・6(H ₂ O)	-	10025-77-1
塩化水素	0.1-1%	HCl	1-215	7647-01-0
精製水	残	H ₂ O	-	7732-18-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

データなし

4. 応急処置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。多量の水/石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

データなし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

データなし

医師に対する特別な注意事項

データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

火災時の特有の危険有害性

火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

全ての着火源を断つ。周囲に注意喚起し、避難させる。可能であればガス発生源を遮断する。

危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。

低地から離れる。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

吸収剤(例：乾燥土、砂、不燃性布)で流出物を拭き取り、化学品廃棄容器に回収する。

大量の流出には盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて化学品廃棄容器に回収する。

回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。

二次災害の防止策

付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	安全取扱い注意事項	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手など、ばく露箇所をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	取扱い後は手など、ばく露箇所をよく洗うこと。
	保管	容器を密閉しておくこと。 直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。
保管	安全な保管条件	容器を密閉しておくこと。 直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。
	安全な容器包装材料	データなし

8. ばく露防止及び保護措置

化学名	管理濃度	日本産衛学会 許容濃度	ACGIH
塩化鉄(Ⅲ)6水和物	未設定	未設定	TWA: 1 mg/m ³ Fe
塩化水素	-	2 ppm、 3.0 mg/m ³	TLV-C: 2 ppm
設備対策	設備/装置全体を密閉化するか、又は局所排気装置／プッシュプル型換気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄の為の設備を設け、その位置を明確に表示する。		
保護具	呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。	
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。	
	眼、顔面の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。	
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。	

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

物理状态	: 液体
色	: 褐色透明
臭い	: 無臭
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水に可溶
n-オクタール/水分配係数(log 値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし
その他データ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	200℃以上に加熱すると分解し、有毒で腐食性の気体(塩素、塩化水素など)を生じる。水溶液は中程度の強さの酸である。アルカリ金属、アリルクロリド、エチレンオキシド、スチレン、塩基と激しく反応し、爆発の危険をもたらす。金属を侵し、引火性/爆発性の気体(水素)を生成する。
避けるべき条件	高温、直射日光、加熱、混触危険物質との接触
混触危険物質	アルカリ金属、アリルクロリド、エチレンオキシド、スチレン、塩基
危険有害な分解生成物	塩素、塩化水素、水素

11. 有害性情報

急性毒性(経口)

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ): ラットのLD50値として、500-5,000 mg/kg、900 mg/kg、1,872 mg/kg、約2,900 mg/kg、約2,900 mg/kgの5件の報告(SIDS(2008))がある。区分4及び区分外にそれぞれ2

件ずつのデータが該当するので、LD50 値の小さい値の該当する区分 4 とした。

【塩化水素】ラット LD50 = 238～277 mg/kg、700 mg/kg (SIDS (2009)) より、危険性の高い方の区分 3 とした。

急性毒性(経皮)

【塩化鉄(Ⅲ)6 水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：データ不足のため分類できない。

【塩化水素】ウサギ LD50 > 5010 mg/kg (SIDS (2009)) に基き区分外とした。

急性毒性(吸入：ガス)

【塩化鉄(Ⅲ)6 水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：GHS の定義における固体である。

【塩化水素】ラット LC50 = 4.2, 4.7, 283 mg/L/60min (4 時間換算値：順に、1411, 1579, 95083 ppm) (SIDS (2009)) より、危険性の高い方の区分 3 とした。

急性毒性(吸入：蒸気)

【塩化鉄(Ⅲ)6 水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：GHS の定義における固体である。

【塩化水素】データなし。

急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)

【塩化鉄(Ⅲ)6 水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：データ不足のため分類できない。

【塩化水素】エアゾールのデータ、ラット LC50 = 1.68 mg/L/1h (SIDS (2009))。この値の 4 時間値 0.42 mg/L に基づき区分 2 とした。

皮膚腐食性/刺激性

【塩化鉄(Ⅲ)6 水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：本物質は強酸性物質であり、0.1M 溶液は pH2 (HSDB (Access on September 2014)) との記載があることから区分 1 とした。なお、ウサギを用いた試験の報告が 3 報あり、刺激性ありが 2 件、刺激性なしが 1 件の結果が報告されている (SIDS (2008)、IUCLID (2000))。

【塩化水素】ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、1～4 時間曝露により濃度次第で腐食性が認められていること (SIDS (2009))、マウスあるいはラットに 5～30 分曝露により刺激性および皮膚の変色を伴う潰瘍が起きていること (SIDS (2009))、またヒトでも軽度～重度の刺激性、潰瘍や薬傷を起こした報告もある (SIDS (2009))。以上より、本物質は腐食性を有すると考えられるので区分 1 とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

【塩化鉄(Ⅲ)6 水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：本物質は強酸性物質であり、0.1M 溶液は pH2 (HSDB (Access on September 2014)) との記載がある。また、ウサギに本物質の 40% 水溶液を適用した結果、重度の刺激性を示した (SIDS (2008)、IUCLID (2000))。以上の結果から区分 1 とした。

【塩化水素】皮膚腐食性で区分 1 に分類されている。眼の損傷・刺激性に関してはすべて本物質の水溶液である塩酸曝露による。ウサギを含め複数の動物試験の結果、眼に対する重度の刺激または損傷性、腐食性を示すとの記述があり (SIDS (2002))、また、ヒトにおいても永続的な損傷や失明のおそれが記載されている (SIDS (2002)) ので区分 1 とした。なお、EU 分類では C、R34 に分類されている。

呼吸器感受性

【塩化鉄(Ⅲ)6 水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：データ不足のため分類できない。

【塩化水素】【分類根拠】

(1)～(3)より、本物質にばく露されたへのばく露による喘息症状の報告があるが、本物質の刺激性による可能性が考えられることから、分類できない。なお、情報源の情報を精査し、分類結果を変更した (2024 年度)。

【参考データ等】

(1) 塩化水素は刺激性があり、これが気管支収縮を誘発する原因となり得る (ACGIH (2003)、産衛学会許容濃度提案理由書 (2014))。

(2) 塩化水素が含まれるプール清掃製品に1時間ばく露された事例を報告している。患者はもともと弱いぜんそくがあったが、ばく露により急速に重篤な気管支痙攣をおこし、1年後も通常の刺激性物質の吸入によって引き起こされたのと同様の明らかな喘息症状が続いた (同上)。

(3) 10名の喘息患者 (男女各5名, 18 ~ 25歳) に、15分運動-15分休憩-15分運動の課題を課しながら、清浄空気 (0 ppm)、0.8 ppm および 1.8 ppm の塩化水素を計 45 分間吸入ばく露し、呼吸器系その他への影響を調べた結果、いずれも肺への影響は見られなかった (同上)。

皮膚感作性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：データ不足のため分類できない。モルモットを用いた試験において、2匹中1匹に陽性反応がみられたが、例数が少なく試験法について不明であるため結論できないとの記載がある (SIDS (2008)、IUCLID (2000))。また、66歳白人男性の鉄への接触感作と本物質2%液のパッチテストでの陽性反応が報告されている (SIDS (2008)、IUCLID (2000)) が1症例のみである。

【塩化水素】モルモットの Maximization Test およびマウスの Ear Swelling Test での陰性結果 (SIDS (2009)) に加え、50人のヒトに感作誘導後 10~14日に適用した試験において誰も陽性反応を示さなかった報告 (SIDS (2009)) があり、区分外とした。

生殖細胞変異原性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、マウス骨髓細胞の小核試験で陰性 (SIDS (2008))、in vitro では、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験1例で陽性であるが、複数の細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験で陰性である (SIDS (2008)、NTP DB (Access on October 2014))。なお、マウス精巣を用いた in vivo 染色体異常試験で陰性報告があったが、詳細不明であった (SIDS (2008))。旧分類で、「マウスに経口投与による骨髓細胞の染色体異常試験陽性結果 (IUCLID (2000))」は誤りであり、硫酸鉄(Ⅱ)における陰性の結果であったことから削除した。また、旧分類の「マウスに経口投与による骨髓細胞の小核試験陽性結果 (IUCLID (2000))」は、SIDS (2008) において対照群がないなど複数の問題があり in valid と記載されているため削除した。

【塩化水素】In vivo 試験のデータがないため分類できない。なお、Ames 試験では陰性、in vitro 染色体異常試験では低 pH に起因する偽陽性が得られている (SIDS (2009))。

発がん性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：国際評価機関による発がん分類はない。雌雄の F344 ラットを用いた2年間飲水投与で発がん性試験で発がん性はみられていない (SIDS (2008)) が、1種の動物のみの結果でありデータ不足のため分類できない。

【塩化水素】IARC による Group 3 (1992年)、ACGIH による A4 (2003年) の分類に基づき区分外とした。なお、ラットあるいはマウスの発がん性試験では発がん性を示唆する証拠はなく (SIDS (2009))、ヒトの疫学調査でも多くはがん発生と塩化水素曝露との関係に否定的である (IARC 54 (1992)、PATTY (5th, 2001))。

生殖毒性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：データ不足のため分類できない。

なお、生殖毒性試験の情報は無いが、ラットの精巣内に投与した実験で精巣、精巣上体の精子形成に影響がみられたとの報告、交配1日前にラットの膈内に投与した実験で着床前の死亡がみられたとの報告（SIDS（2008））がある。これらは通常の生殖発生毒性試験と投与経路が異なることから分類根拠としなかった。また、ラットを用いた経口経路（飲水）での催奇形性試験において、母動物及び胎児に影響がみられていないとの報告がある（SIDS（2008））。しかし、1用量のみの試験であり分類に用いなかった。

【塩化水素】データはすべてラットまたはマウスの妊娠期に投与した試験であり、児動物の発生に及ぼす悪影響は認められていない。しかし、親動物の交配あるいは妊娠前投与による性機能または生殖能に対する影響については不明であるので、データ不足のため「分類できない」とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：本物質ではないが、鉄化合物として、粉塵、ミストの吸入で気道刺激性がある（ACGIH（7th, 2001）、SIDS（2008）、HSDB（Access on September 2014））。

本物質については、1例の報告であるが、ヒトが塩化第二鉄溶液 200 mL（pH1）を誤飲した事例で、初期に低酸素血症、呼吸性アルカローシスを伴う重度の代謝性アシドーシス、摂取3時間後に嘔吐、意識混濁、頻脈、頻呼吸、摂取4時間後に重度の嘔吐、心肺停止により死亡したとの報告がある（HSDB（Access on September 2014））。なお、ヒトの鉄化合物の経口摂取により、嘔吐、下痢、軽度の嗜眠、上腹部痛、蒼白、重篤な場合、高血糖、チアノーゼ、昏迷、アシドーシス、吐血、昏睡の報告、硫酸鉄（Ⅱ）の経口摂取で胃粘膜の影響、心血管/末梢循環系の影響、代謝性アシドーシス、中枢神経系への影響の記載がある（SIDS（2008）、ACGIH（7th, 2001））。

以上より、本物質は気道刺激性を有すると考えられることから区分3（気道刺激性）、また、全身性に影響を与えると考えられるが標的臓器を特定できないことから区分1（全身毒性）とした。

旧分類では全身毒性を区分2としていたが、ヒトへの影響は上記のとおり重篤な場合があることから、区分1に変更した。

【塩化水素】ヒトで吸入曝露により呼吸困難、喉頭炎、気管支炎、気管支収縮、肺炎などの症状を呈し、上気道の浮腫、炎症、壊死、肺水腫が報告されている。（DFGOT vol.6（1994）、PATTY（5th, 2001）、IARC 54（1992）、ACGIH（2003））。また、動物試験では粘膜壊死を伴う気管支炎、肺の浮腫、出血、血栓など、肺や気管支に形態的傷害を伴う毒性影響がガイダンス値の区分1の範囲で認められている（ACGIH（2003）、SIDS（2009））。以上のヒトおよび動物の情報に基づき区分1（呼吸器系）とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：塩化鉄（Ⅲ）・6水和物をラットに13週間飲水投与した試験において、無毒性量（NOAEL）は 5,000 ppm（雄：277 mg/kg/day、雌：344 mg/kg/day 相当）と報告されている（SIDS（2008））が、病理組織検査を含めて十分な評価項目で実施された試験結果ではない。

2価の鉄イオンは胃内の低pHにもかかわらず3価の鉄イオンに酸化され、タンパクとキレートを形成して水溶性を高め、小腸粘膜より吸収される（SIDS（2008））との記述があり、反復投与毒性試験を2価鉄化合物まで範囲を広げて調査しても、硫酸鉄（Ⅱ）・7水和物をラットに最長49日間、塩化鉄（Ⅱ）をラットに最長54日間、いずれも強制経口投与した反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験（OECD TG 422）において、区分2までの用量範囲では無毒性で、高用量群（ガイダンス値換算で233 mg/kg/day 超）でさえ、脾臓、肝臓への色素（ヘモジデリン）沈着、血液影響などがみられた程度で、重篤な標的臓器毒性はみられていない（SIDS（2008））。以上より、経口経路では区分外相当と考えられるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため「分類できな

い」とした。

【塩化水素】ヒトで反復曝露を受け侵食による歯の損傷を訴える報告が複数あり (SIDS (2002)、EHC 21 (1982)、DFGOT vol.6 (1994)、PATTY (5th, 2001))、さらに慢性気管支炎の発生頻度増加も報告されている (DFGOT vol.6 (1994))。これらの情報に基づき区分1 (歯、呼吸器系) とした。

誤えん有害性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：データ不足のため分類できない。

【塩化水素】GHS の定義におけるガスである。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：甲殻類 (ミジンコ) による 48 時間 LC50 = 37.5 mg/L (12.9 mgFe/L) (SIDS, 2008) であることから、区分3とした。

【塩化水素】魚類 (コイ) の 96 時間 LC50 (OECD TG203) = 4.92 mg/L (pH: 4.3)、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50 (OECD TG202) = 0.492 mg/L (pH: 5.3)、複数の金属塩を含有する OECD 媒体への溶解液による藻類 (ラフィドセリス属) の 72 時間 ErC50 (OECD TG201) = 0.492 mg/L (pH: 5.3) (以上、SIAR (2005)) であることから、甲殻類、藻類より区分1とした。

新たな情報を入手し、採用したが、旧分類から分類結果は変更しない。

水生環境有害性 長期(慢性)

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：急無機化合物につき環境中動態が不明であるが、甲殻類 (オオミジンコ) の 21 日間 NOEC = 2.0 mg/L (0.70 mgFe/L) (SIDS, 2008) であることから、区分外とした。

【塩化水素】慢性毒性データがある栄養段階 (藻類) に対して、藻類 (ラフィドセリス属) の 72 時間 NOErC (OECD TG201) = 0.097 mg/L (pH: 5.3) (SIAR (2005)) であるが、酸性による急性影響が疑われない pH 値であり、また、複数の金属塩を含有する OECD 培地と脱塩素した水道水が使用されているため、通常の生態系を代表する値とはならないだろうと SIAR (2005) に記載されており、分類できないとする。

慢性毒性データがない栄養段階 (魚類、甲殻類) に対して、急性データは魚類 (コイ) の 96 時間 LC50 = 4.92 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50 = 0.492 mg/L であるが、これらは蒸留水を溶解液とした試験の結果であり、環境水中では緩衝作用が生じるとみられるため、区分に該当しないとなる。

以上の結果より、区分に該当しないとした。

残留性・分解性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。

【塩化水素】データなし

生体蓄積性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。

【塩化水素】データなし

土壌中の移動性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。

【塩化水素】データなし

オゾン層への有害性

【塩化鉄(Ⅲ)6水和物】データなし。塩化鉄(Ⅲ)：モントリオール議定書の附属書に列記されていない。

【塩化水素】モントリオール議定書に指定された物質に該当しない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)

国連番号

-

品名(国連輸送名)

-

国連分類(輸送における危険有害性クラス)

-

副次危険

-

容器等級

-

海洋汚染物質

-

IMDG(海上)

国連番号

-

品名(国連輸送名)

-

国連分類(輸送における危険有害性クラス)

-

副次危険

-

容器等級

-

海洋汚染物質

-

MARPOL73/78 附属書Ⅱ及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

該当

IATA(航空)

国連番号

-

品名(国連輸送名)

-

国連分類(輸送における危険有害性クラス)

-

副次危険	-
容器等級	-
環境有害性	-
国内規制	
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	消防法、毒物及び劇物取締法の規定に従う。
その他(一般的)注意	化学品を扱う場合の一般的な注意として、輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
特別安全対策	-
緊急時応急措置指針番号	-

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条)

「鉄水溶性塩-対象となる範囲(重量%) ≥ 1 」

「塩化水素-対象となる範囲(重量%) ≥ 0.2 」

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2)

「鉄水溶性塩-対象となる範囲(重量%) ≥ 1 」

「塩化水素-対象となる範囲(重量%) ≥ 0.1 」

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質(規則第 594 条の 2)

「塩化鉄(Ⅲ)-裾切値(重量%): 1」(皮膚刺激性有害物質)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化審法

非該当

消防法

非該当

大気汚染防止法

有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中環審第 9 次答申(別表 1)の 35)「塩化第二鉄」

ばい煙(有害物質)(政令第 1 条第 2 号)「塩素及び塩化水素」

特定物質(政令第 10 条第 9 号)「塩化水素」

水質汚濁防止法

指定物質(政令第 3 条の 3)「塩化水素」「鉄及びその化合物」

生活環境項目「溶解性鉄含有量」排水基準：10mg/L

海洋汚染防止法

有害液体物質(Y 類物質)(施行令別表第 1)「塩化第二鉄溶液」

有害液体物質(Z 類物質)(施行令別表第 1)「塩酸」

船舶安全法(危険物船舶運送及び貯蔵規則)

非該当

航空法

非該当

廃棄物処理法

非該当

労働基準法

疾病化学物質(法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号 1)「塩酸」

16. その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法 PRTR・MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
GHS 分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
GHS モデル MSDS 情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。